

前途 ようよう

- z e n t o y o y o - VOL.7

高齢者介護業界のあの人がこの人に、これからの高齢者介護についての予測や展望をお聞きするインタビューコーナーです。

vol.7 株式会社ウィズ・ケアサポート 代表取締役 大久保真紀 様



【株式会社ウィズ・ケアサポート／大阪府枚方市】



【大久保様】

1. 貴施設の沿革や特色について教えてください。

2004年に会社を設立し、2005年2月に大阪府枚方市長尾に「グループホームそおれ」をオープンしました。その後は在宅系介護サービス全般を提供して参りました。開設10年となる節目の2015年2月には、おかげさまで「グループホームそおれ」の新築移転及び本社移転を無事迎えることができました。

介護や福祉の仕事は人の生命・生活を守る尊い職業です。私たちは、その使命に熱い思いを抱き誠実にサービスを提供します。また、介護・福祉の仕事に誇りを持ち続け、共に働く喜びを感じられる心の通い合う組織を目指しています。私たちウィズ・ケアサポートは、法令を守り健全な企業経営の下、相手を思いやる福祉の実践、未来へつなぐ人材の育成を通して、これからの住み良い地域社会へ貢献して参ります。

今春行われた介護保険法改正で、介護をとりまく環境はより一層厳しいものとなりましたが、私たちはこれからも人として当たり前のことを優しく丁寧に行うという基本を実践し、チームとしてお困りごとには即応、柔軟にサービスの提供を行っていきたく考えています。そして、「認知症ケアの専門職」として地域に貢献できるよう、今できる事を真面目に一つ一つ取り組んで参ります。

2. 大久保様のご経歴や現在の役割を教えてください。

福祉系の大学を卒業してからMSW（医療ソーシャルワーカー）として大阪の病院に勤務しました。当時、社会的にも珍しかった認知症ケア専門病棟があり、患者さん全員が一律で同じケアを受ける姿を目の当たりにしました。当時ではよくある光景だったのですが、看護の質や患者さんの尊厳を考えると虚しさを感じることもありました。

3年目の1999年に実家の都合で大阪から奈良に移り、なにかもっと認知症の方々に寄り添うことができないかと考えていたところ、仲間が立ち上げたグループホームのオープニングスタッフとして誘いを受けて共に働くことになりました。そこからは様々なご縁をいただき、在宅福祉に歴史のある大阪府枚方市において2004年に自身が代表を務めるウィズ・ケアサポートを立ち上げることになりました。以降は前述の通りで在宅系の介護サービス全般を提供しております。

3. 高齢者ケアについて

貴社での近年のお取り組みの特徴、また最近介護業界が変わったと思うことがあれば教えてください

当社の特徴は、地域住民にとって頼りがいのある存在でありたいという思いから、介護に関わるサービスを提供しています。認知症の方でお困りごとがあった場合に、スムーズにケアサービスの提供を行えることが当社の強みです。

少し変わった話ですが、この点を評価いただいて、他所のグループホームからの紹介で利用者さんを「そおれ」で受け入れることもあります。

最近では、業界全体の底上げの必要性を感じ、「枚方市グループホーム連絡協議会」の発起人をサポートする活動もしており、グループホームの地位向上や地域包括支援システムのなかで行政に存在感を出せるように取り組んでいます。

社会や業界が変わってきたことや進化した事は沢山ありますが、思いつく事と言えば、通り一辺倒な「集団ケア」ではなく、状態に合わせて柔軟に対応する「個別ケア」に変化したことです。グループホームという施設では元々「個別ケア」に取り組んでいましたが、介護業界全てにおいて「個人」が尊重されるようになったと感じています。

また、共有スペースや居室など施設全体が清潔に感じられるようになった事や、介護技術や用具が進化した事も大きな変化と感じています。以前に比べて職員も入居者も明るく日常を過ごせるようになってきたと思っています。私たちの場合は日々のサービス提供で職員の役割分担を見直して、介護の質や技術の向上を目指して可能な範囲で外注を利用するようにしています。

当社は設立当初施設が2Fにあった事もあり、職員の負担軽減や利用者さんの安全確保を考慮して、「階段昇降機」を取り入れたり、「介護タクシー」も制度が整う前から先んじて様々なサービスを提供してきました。その取り組みが地域住民や利用者さんの評価に繋がっていると思っています。現在も様々なことを先んじて取り入れられるように情報収集を行っています。



【枚方市グループホーム連絡協議会ホームページ抜粋】

<https://www.hirakata-group-home.com/>

4. 福祉機器とのかかわりについて

福祉用具があって助かった事（活用メリットなど）を教えてください。

また、こんな福祉用具があればいいなと思うモノがあれば教えてください。

見守りや転倒防止目的でテクノスジャパンの「ケアロボコール」を活用しています。

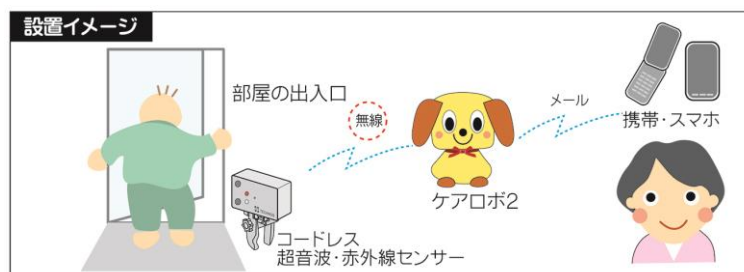
実は、利用者さんだけでなく、近くに住む私の父親にも活用しています。施設内使用はケアロボから呼び出しがあればすぐにスタッフが駆け付けて利用者さんのペースに合わせて介助できています。

私の父親の場合は、ケアロボを活用する前は対策用具は何も使用しておらず、転倒事故で怪我をしたこともありました。ケアロボを活用するようになってからは、写真で様子を知ることができますし、介助が必要な場面では写真付きメールが届きますので心理的に非常に助かっています。父の場合は、枕元に置いている電話の着信をとることができますので、帰宅して介助するまでの目安時間を連絡することが出来てお互いに安心感もできました。私がどうしても手が離せず帰宅して介助できない時には、当社の介護スタッフや介護タクシースタッフをお願いをして父への声掛けや手助けをお願いする事があります。

正にこれが地域包括ケアシステムの在り方でしょ？（笑） 本当にスタッフには感謝しています。



【ケアロボコール 2C タイプ】



【ケアロボコール 2C 設置イメージ】

ケアロボ以外では、特にシャワーキャリーが便利です。職員の腰痛防止や認知症で多動の方でも安全に入浴できるところが職員・利用者共に良いところです。

あったら良いと思う物は、「尿取りパッド」や「多量の食材や食品を一気に刻めるキッチンはさみ」です。

他に望んでいることのひとつに、「全ての物でサイズの統一が図られること」があります。例えば、車いすだと手押しと電導ではサイズが異なります。スタッフが介助したり送迎する場合に車に乗れなかったりすることで手間だったり安全が確保できない場合があります。業界を超えた課題で社会の在り方の問題になると思いますが、サイズが統一されることで世の中が便利で安全になることも沢山あると思っています。

5. これからの高齢者ケアについての展望や期待、夢を教えてください。

私は、施設を開所した当時は「10年で新築施設を建てて利用者を迎える」ことが目標でした。そのひとつの目標は達成できましたが、次の10年の目標は「介護の仕事をするなら『おれ』でいたい！」と思われる存在になることです。

既に取り組んでいることは、当社で働きながら勉強することで学校の授業料を当社が負担するという若い人に介護職に就くための勉強をしてもらう取り組みを始めており、若い世代の人材育成に大きな関心と期待を寄せています。やり甲斐を持って働ける環境作りの努力は惜しみません。また、業界全体のこれからの在り方も考えたうえで、施設の環境改善やイベント開催を積極的に行って魅力ある業界・職場をアピールしていきたいと思っています。